

宇摩ジュニアラグビースクール（四国中央市合同チーム）

- 1 活動の趣旨
- ①ラグビーのスピリットでもあるノーサイドの精神や「ONE FOR ALL ALL FOR ONE」の精神など、自己犠牲や感謝の気持ち等の精神を養い、人間育成をすることを目的とした上に、スポーツの勝つ喜びを学ぶ。**（礼儀）**
 - ②また、他のスポーツにない「コンタクトプレー」を行うことで、現在の子ども社会で希薄になってきた忍耐力や責任感を学ぶ絶好の機会であるとする。**（責任）**
 - ③すべてのスポーツの中で、最も人数の多い競技であり、そのために、様々な個性の生かせる競技でもある。その中で、仲間とつながり、判断力を養う。**（判断）**
- 2 活動内容
- ・四国中央市には、現在、土居中・三島南中・三島西中・三島東中・川之江北中・川之江南中にラグビー部があり、中体連（学校部活動）の活動には「四国中央市合同チーム」として出場している。（単独校で12名以上となれば、変わる可能性あり）
 - また、協会への登録は「宇摩ジュニアラグビースクール」としてスクール登録（学校卒にとらわれない社会体育として登録）をしており、市外（今年度も西条市の生徒が参加していた）の生徒たちにも門戸を開放している。また、他の学校部活動へ参加していても、土日の練習や大会（中体連以外）への参加は可能であり、選択肢は多岐に渡る。

【主な練習予定】

平日の練習	長期休業中（春休み・夏休み・冬休み）	水・金の練習
月曜日 休日	三島東中で終日練習	19:30 練習開始（三島高校合同の場合は18:30からあり）
火曜日 各校練習（三島東中の場合あり）	9:00～12:30 ランメニュー中心	★学校行事等で遅れる場合は電話連絡をしてください。
水曜日 ナイター練習（三島運動公園中心）	12:30～13:00 昼食 （弁当は最低でも自分で詰める）	21:00 練習終了
木曜日 各校練習（三島東中の場合あり）	13:00～14:00 学習 （長期休業課題は前半で終了、補充学習）	（練習メニューにより、多少遅れることがあります）
金曜日 ナイター練習（三島運動公園中心）	14:30～15:00 体幹トレーニング	★自転車で来させてもかまいませんが、安全に十分に配慮願います。
土曜日 スクールと同じ（遠征等あり）	15:30～17:30 ゲーム形式・ハンドリング フィットネストレーニング	
日曜日 練習試合・合宿等 （祝日等は別に練習予定あり）		

1年間の主な行事

	中体連関係（部活動）	スクール関係	愛媛選抜	イベント・交流
4月	部活動入部			愛媛県ラグビー祭
5月		四国中央市長杯（SF 富郷） （保護者の協力が必要）		保護者会
6月	（市予選）	<u>太陽生命カップ予選</u> （近畿地域）	関西大会四国予選	岩崎杯（徳島） 四国スクール祭（富郷）
7月	<u>愛媛県総体</u>		<u>関西大会</u> （岐阜県飛騨市）	
8月		大阪三島地区合宿来市		大阪三島地区合宿
9月	（市新人戦）	<u>中四国大会</u> （各県持ち回り） 太陽生命カップ（茨城）		B B Q（一の宮） （スクールと合同）
10月	<u>愛媛県新人体育大会</u>		全国大会四国予選	
11月			全国大会中四国予選	
12月		芦屋カップ（兵庫県芦屋市）	<u>全国大会</u> （東大阪花園）	
1月			三島カップ（大阪三島地区）	三島初蹴り（三島高校）
2月		<u>四国7人制大会</u> （北条）		3年生送別試合（富郷）
3月		関西スクール新人戦（淡路）		北条ラグビーフェスタ（北条）
	県総体は松山開催 県新人は交互開催	★ 宿泊の遠征等が、別に数回程度入ります。	★ 月に2回程度愛媛県合同練習があり	

- 3 指導者 渡部振一郎（三島東中学校 教諭）・・・・・・愛媛大学ラグビー部 OB
 （四国中央市合同チーム部長）
 藤田 敏（山中商事）・・・・・・三島高校ラグビー部 OB
 （スクール校長）
 岸田 誠弘（三島西中学校 教諭）・・・・・・近畿大学ラグビー部 OB
 （四国中央市合同チーム監督）
 伴野 勝也・・・・・・三島高校ラグビー部 OB
 （ヘッドコーチ）
 吉岡 佑・真鍋 旭・・・・・・三島高校ラグビー部 OB
 （コーチ）
 藤田 恭二・鈴木 聡・須川 貴也・宇高直将・・ルーリング・帯同レフリー

4 卒業生の進路状況

高等学校⇒三島高校ラグビー部・西条高校ラグビー部・新居浜高専ラグビー部・坂出第一高校ラグビー部
 高知中央高校ラグビー部・松山聖陵高校ラグビー部・新田高校ラグビー部・愛校学園高等部ラグビー部
 石見智翠館高校ラグビー部・天理高校ラグビー部・東海大仰星ラグビー部
 大学 ⇒愛媛大学・愛媛大学医学部・松山大学・高知大学・徳山大学・広島大学・九州大学・環太平洋大学
 広島経済大学・福岡大学・日本文理大学・大阪体育大学・関西大学・岡山理科大学・帝京大学
 明治大学・近畿大学医学部・大阪外語大学・天理大学・日本大学

- 5 費用等 選抜メンバー等で予選を勝ち抜いて参加の場合 ⇒ 四国中央市協会から全額補助あり
 招待試合・大会等への参加 ⇒ 四国中央市から半額程度の補助あり
 合宿等への参加 ⇒ 実費、参加者が負担（1泊2日で6千円程度）

（保護者会費は現在、月に3000円程度を集めています。会費は自家用車で移動の場合のガソリン代等に利用）

宇摩ジュニアラグビースクール （四国中央市合同チーム）

宇摩地域（現四国中央市）のラグビーができる環境として、高校では三島高校に唯一のラグビー部があり、社会人ではクラブチームの三島クラブがある。昭和末から毎週2回、伊予三島運動公園多目的グラウンドにおいて、高校・クラブの合同練習が行われてきた。三島高校の強化のためには、中学生年代をラグビーに触れさせることが重要と考えた合田啓八郎（前県協会副会長）や藤田恭二（現県協会理事長）や渡部振一郎（現宇摩ジュニア監督）が平成2年頃から、中学生に夏休みを含め2ヶ月程度のスクール活動を自主的に開始したが、宇摩ジュニアラグビースクール（中学生対象）の前身である。

まず、平成6年に12月び三島ラグビースクール（現宇摩ラグビースクール・小学生対象）を立ち上げる。次に、小・中・高・社会人と地域で一貫したラグビーを目指すために、市内中学校に部活動を立ち上げる。宇摩ジュニアラグビースクールの成立は、平成9年の10月に、伊予三島市立西中学校にラグビー部が創部され、それと同時に、三島ラグビースクールの卒業生が中学校での活動の場として、平成10年度から市内中学生を対象としてスタートした。当初は、三島西中学校にしか部活動がなかったために、宇摩ジュニアラグビースクールの活動よりも、各中学校で他の部活動に入部する者が多く、少人数での活動を余儀なくされた。そこで、小学時代にラグビーを経験した生徒や3年生で他の部活動を終了した生徒に声をかけ、愛媛県合同練習会等でやっと試合を経験させるような活動が続いた。

大きな変化は、中体連が平成13年度の新人戦から、少子化対策のために、合同チームでの参加を認め、単独校でなくとも部活動として活動できるように改革がなされたことである。このことが部員数を増加させるきっかけとなった。そして、参加2度目の平成14年度の県総体で、三島西中・三島東中の合同チームによって初優勝を飾った。これによって、地域や三島ラグビースクールの保護者に、宇摩ジュニアスクールのみならず、部活動としても認知されるようになった。

この代はキャプテン長野栄司を中心に、運動量と激しいプレーで好成績を収めた。FWの中心選手としては、伊藤琢真（三島高校→現三島クラブ）や友金義生（三島高校→愛媛大学を経て現三島クラブ）や河村智宏（三島高校→愛媛大学医学部）らが在籍した。BKでは鈴木英民（三島高校→現善通寺自衛隊ラグビー部）や原剛志（西条高校→帝京大学→丹原高校職員）のむらよしのりや野村嘉範（西条高校野球部で甲子園出場→國學院大学）などの変り種も在籍した。この代の2年生には、西井努（九州大学卒業）や今村優志（松山大学→三島クラブ）や蝶野憲（高知大学→三島クラブ）や前川晃久（高知大学→三島高校教員）などが在籍し、後の三島高校が花園初出場の際のメンバー達である。

平成15年度入学生より数年は、各学年10名以上の入部があり、部員数の増加とともに、大会での結果に結びつくようになった。同時に、三島高校も常に県大会の決勝に進出するようになった。

平成15年入学組は入学時より、能力も高く、FWの

にしとしひろ
西井利宏（三島高→大阪体育大学→サニックス）や山口直希
やまぐちなおき
（三島高→徳山大学→三島クラブ）、BKの澁谷剛（江の川
しづたごろう
高→明治大学）、いまむらひろき
（三島高→広島大学）、まつだすぐる
（天理高→天理大学）など、現在でも大学でラグビーを続けている
者が多い。この学年は県新人大会・総体・四国中央市長杯
・関西大会Bブロック優勝・全国大会出場と上記メンバーが
中心となり、数々のタイトルを獲得した。



第17回愛媛県中学校新人フグビーフットボール大会 優勝 四国中央市合同チーム 2004.11.13

平成17年入学組は、全体的にサイズがない。激しいプレーや、ボールコントロールでゲームを支配することが多く、新人戦では松山合同に敗れたが、県総体では、接点で圧倒し勝利を収めた。FWでは加地郡（三島高→関西大学）、宮崎文博（三島高→松山大学）富家恭蔵（高知中央高→天理大学）が中心となり、FW戦で負けない状況を作ることができた。BKではハーフバック陣の大西辰弥（三島高→大阪体育大学）・大久保総斗（三島高→環太平洋大学）らがゲームコントロールをし、高橋恵吾（三島高）らをペネトレーターとして、得点を重ねるゲーム運び勝利していた。



平成19年 愛媛県総体優勝メンバー

その後、数年間は県内でも勝てない時代が続いたが、地元の三島高等学校へ大部分が進学するようになり、中学生時代には開花しなかった生徒たちが成長を遂げる姿が多々見られるようになった。

高等学校の活躍の中、中学校での勝利を見るには、平成23年入学組まで待たなければならない。この年はサイズに恵まれた素材が多かった。キャプテンとして突破役として活躍した三好優作（松山聖陵高校）を中心に、FWには山田生真

（東海大仰星）が声と理解度の高いプレーで牽引し、宇田龍司がギャップをつきながら、フィニッシャーとして坂上知志（三島高校）がビックゲインを繰り返した。また、運動量の多い由藤聖樹（坂出第一）がサポートし、ひたむきなプレーの藤原辰斗（新居浜高専）もバイプレイヤーとして活躍した。残念ながら進路先が分散してしまい、このメンバーが三島高等学校に集まれば大きな戦力となったと思う部分が残念である。



平成24年 県新人戦優勝

現在の三島のラグビーを語る上で、もう一つ欠かせない要素として、スカイフィールド富郷というグラウンドの存在を忘れてはならない。平成13年4月に富郷ダムの土捨て場の跡地活用の事業として、3面天然芝のスカイフィールド富郷グラウンドがオープンし、ハード面でも芝生の環境で練習できるチャンスが増えた。それに伴い、大会や練習試合の誘致にも積極的に取り組み、毎年トップリーグの神戸製鋼を中心に、トップレベルの選手のプレーや指導を受けるチャンスにも恵まれた。平成17年より、ゴールデンウィークにスカイフィールド富郷を会場に四国中央市長杯を開催し、中四国のチームを中心に九州・関西のチームを招待するなど、現在も小学生・中学生・高校生のラグビーのメッカとなっている。



国体ターゲットエイジ（平成24年入学組）

また、今後は2017年には、四国中央市で国体の少年部の会場となることもあり、今後もより一層、底辺からの強化が望まれる。

年 度	主 将	県総体	県新人	関西大会	全国大会	7人制	その他
10年	星野健太 <small>ほしのけんた</small>	不参加	不参加	Bグループ2位(愛媛選抜)			
11年	中川賢治 <small>なかがわけんじ</small>	不参加	不参加	スクールの部4位(愛媛スクール)			
12年	受川達也 <small>うけがわたつや</small>	不参加	不参加	スクールの部6位(愛媛スクール)			
13年	千葉啓介 <small>ちはけいすけ</small>	3位	準優勝	Bグループ5位(愛媛スクール)	スクールの部7位(四国選抜)		
14年	長野栄司 <small>ながのえいじ</small>	優勝	3位	Bグループ優勝(愛媛スクール)	スクールの部4位(四国選抜)		
15年	前川晃久 <small>まえかわあきひさ</small>	3位	3位	Aグループ8位(愛・徳選抜)			
16年	大西芳季 <small>おおにしよとき</small>	4位	優勝	Bグループ3位(四国スクール)	第2ブロック7位(四国選抜)	1年優勝	
17年	飯野哲也 <small>いいのてつや</small>	優勝	優勝	Bグループ優勝(四国スクール)	第2ブロック6位(四国選抜)	1・2優勝	市長杯優勝
18年	井上直弥 <small>いのうえなおや</small>	準優勝	準優勝	Aグループ8位(四国スクール)			
19年	秦泉寺健二郎 <small>じんせん じけん じろう</small>	優勝	4位	Bグループ優勝(四国スクール)			
20年	高橋裕太 <small>たかはしゆうた</small>	4位	準優勝	Aグループ8位(四国スクール)			
21年	南友矩 <small>みなみともり</small>	3位	棄権	Bグループ優勝(愛媛選抜)	第2ブロック6位(愛媛選抜)		以降愛媛選抜
22年	吉岡 佑 <small>よしおかゆう</small>	3位	準優勝	Aグループ7位(愛媛選抜)	第2ブロック7位(愛媛選抜)		
23年	定岡 駿介 <small>さだおかしゅんすけ</small>	3位	3位	Aグループ6位(愛媛選抜)			
24年	宮崎 陸 <small>みやざき りく</small>	3位	優勝	Aグループ8位(愛媛選抜)		1・2優勝	
25年	三好優作 <small>みよしゆうさく</small>	準優勝	3位	Bグループ優勝(愛媛選抜)	第2ブロック6位(愛媛選抜)	2年優勝	市長杯優勝
26年	森川泰樹 <small>もりかわたいじゆ</small>						